

筑波大学附属大塚特別支援学校 代表授業

高等部 社会科 学習指導案

日時	2023年2月9日(金)9:15~10:05
対象	高等部1年 (男子4名・女子4名)
場所	会議室
授業者	田中麻衣(MT)、河島哲(ST1)、石飛了一(ST2)

单元名	みんながくらしやすいまち～ユニバーサルデザイン～
-----	--------------------------



〈高等部教育目標〉

- (1) 学年、学部、学校全体や地域社会の中で、自他の立場や関係を意識して役割を果たす力を身につける。
- (2) 自分の長所や得意なこと、短所や苦手なことと必要な支援を知り、「生きがい」、「学びがい」、「働きがい」を持って将来の生活を豊かに過ごすための多様な進路選択を主体的に行う力を身につける。
- (3) 日々の生活に目標や夢を持ち、よりよい自分を目指して、自分に合った表現方法や解決方法を選択したり、求めたりする力を身につける。

I. 単元計画

学部・年/組	教科等	時数(想定)	実施時期	作成者
高等部1年	社会	9	12・1・2月	田中

1. 単元名

みんながくらしやすいまち～ユニバーサルデザイン～

2. 単元の構想

(1)	学習者の興味・関心 (児童・生徒観)	発言が活発で活気のある学年である。知っていることは自信を持って発表することができることも、わからないことも躊躇せずに言葉にすることができる。「なぜ?」と疑問に思う気持ちや知りたいという気持ちを持っている。内部進学生は小・中部で区内の施設を訪れた経験があり、文京区への親しみを持っている。また、これまで文京区を題材に学習をしてきたこと、文化祭でも同区をテーマとした学習発表にとりこんできたことから、高入生も文京区に関心をもっている。 自分の身の回りにまつわることや体験したことなど、身近に感じられる問題については、自分の価値判断を基に考えることができる。一方で、多様な意見を受け止める経験は少ない実態がある。
(2)	学習活動・教材 (単元・題材観)	駅構内やテーマパーク、初めて訪れる場所で私たちが利用するのが地図や案内標識である。標識には日本語だけでなく多言語で表記されていたり、ピクトグラム、シンボルマークなどが併記されていたりすることで、様々な立場の人にわかるような工夫が施されている。標識や案内板が私たちの生活の「安全・安心」を支えているものだと理解するとともに、様々な立場の人が暮らしやすくするための工夫の一つとしてユニバーサルデザインについて考える機会としたい。また、それらが整えられている背景にさまざまなきまり(法律)があることを知ったり、様々な立場の人の意見を踏まえながらよりよい社会をつくりあげていくことの大切さに気がついたりして、自分たちの生活をとりまく諸課題について関心を高める機会としたい。
(3)	単元の意義・展望 (指導観)	校内や通学路などにある標識や案内板など、日常で目にするものに対して、ユニバーサルデザインの視点からとらえなおし、よりよい社会を考え、地域社会の一員として主体的に社会参加しようとする思いを養うことができると期待する。そして自分たちの生活をとりまく諸課題について関心をもつことで、主権者意識を育てたい。

3. 単元目標(単元全体に関わる内容)

単元を通して目指す子どもの姿		
<ul style="list-style-type: none"> ・調査の観点に基づいて、調べたり情報を集めたりすることができる。 ・様々な立場を想定しながら、多角的に考えることができる。 ・より安全・安心な社会をつくるための工夫を考え、主体的に問題解決しようとしている。さまざまな立場の人の共存を考えようとしている。 		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における多様性について考えるとともに、多様な交流を通して、お互いを知ることや尊重しあうことが大切であることを理解する。 ・身近な人へアンケート調査をしたり、各種の資料で調べたりして、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における諸課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、社会のはたらきやかかわりを捉え、社会参加につながる自身の役割を考え、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加と役割について、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりする。

4. 指導計画

次	小単元名	時数	学習活動
1	なぜ迷子にならないの?	1	○なぜ迷子にならないの? ・生活のなかにある標識とその意味を確認する。 ・私たちや外国人にとってわかりやすい案内を考える。
2	みんなにわかる案内板とは? (エレベーター)	5	○「みんな」にわかりやすい表示を考えよう。 ・エレベーター開閉ボタンのデザインを考える。 ・全校幼児児童生徒及びその保護者へアンケート調査を実施する。 ・調査結果を集計・分析する。 ・様々な立場の人(子ども、障害者、高齢者)の考えを聞く。 ○「みんな」が使いやすいエレベーターとは?【本時】 ・いろいろな「困ることを」を「わかりやすい・使いやすい」に変える方法を考える。
3	ユニバーサルデザインについて調べよう	3	○身近な「わかりやすい」工夫を見つけよう。 ・身近な「ユニバーサルデザイン」について調べる(自動販売機、シャンプーボトル)。 ・わかったことを友だちに伝える。

5. 単元の評価規準

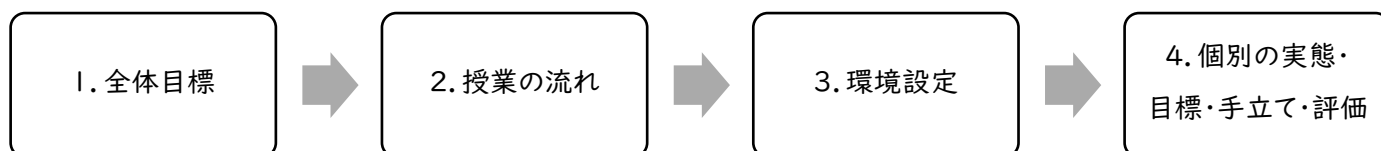
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における多様性について考えるとともに、多様な交流を通して、お互いを知ることや尊重しあうことが大切であることを理解している。 ・身近な人へアンケート調査をしたり、各種の資料で調べたりして、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における諸課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、社会のはたらきやかかわりを捉え、社会参加につながる自身の役割を考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加と役割について、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

6. 単元計画の評価(次年度に向けて) A 概ね妥当 B 要検討

時数:A 概ね妥当 B 要検討()	目標設定:A 概ね妥当 B 要検討()
題材:A 概ね妥当 B 要検討()	教材・環境設定:A 概ね妥当 B 要検討()

II. 本時 (3/6時間)


※本指導案は、下図の順で表記しています。



1. 本時の全体目標

資質・能力	内容
知識及び技能	技能②収集した情報を社会的事象の見方・考え方に沿って読み取る技能 ・目的に沿った有用な情報(事実)を読み取ることができる。(前時より継続) 技能③読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能 ・項目に沿って整理してまとめることができる。
思考力、判断力、表現力等	・調査結果をもとに「わかりやすさ・使いやすさ」について考え、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	

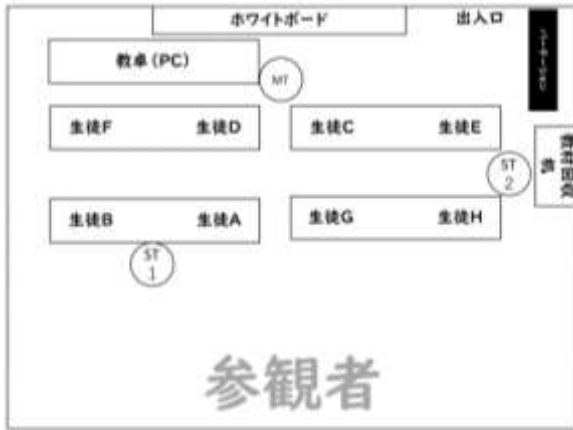
2. 授業の流れ

	学習内容	指導上の配慮事項/【評価】	教材教具/学習の様子
導入 10分	・あいさつ [導入: マッチングクイズ] ピクトグラムやイラスト、デザインとその意味をマッチングさせる。	・開始前にカードを配布する。ペアになる。 ・ST1はA、B、ST2はHが活動に参加できているか確認し、必要に応じて援助する。	・マッチングクイズカード 
展開 30分	[主題: みんなが使いやすいエレベーターとは?] ・前回調べて分かったこと(エレベーターで困ること)を振り返る(ワークシート①前時継続使用)。【技②】 ・「どうしたら、みんながわかりやすくなるか、使いやすくなるか」考えをまとめる(ワークシート②個人用/掲示用)。【技③思】	【ABCD:目的に沿った有用な情報(事実)を読み取ることができる。】 【H:必要な情報を得られる資料を選択することができる。】 ・前時に読み取った内容を手元のワークシートをもとに発表するように促す。内容を再度確認する必要がある際、視聴ができるようにする(PC、G pen Blue)。 【EFG:項目に沿って整理してまとめることができる。】 【全:「わかりやすさ・使いやすさ」について考え、表現することができる。】 ・最初に個人で考える時間を設けたのち、グループ活動へ移行する。 ・ABに対するSTの問いかけは選択肢を用いて行う。 ・グループで考えた意見をホワイトボードの画用紙へ貼り付ける。 【H:「(ボタンに)手が届かない」等への対応案を考えることができる。】 ・エレベーター空間を模したパネルを設置し、主としてHが操作したり、確認したりできるようにする。 ・ABHは「(ボタンに)手が届かない」から取り組み、課題量を教員が調整する。	・教員用PC(3台) ・プロジェクター ・資料(動画) ・ワークシート①② ・画用紙 ・マグネット ・パネル(模擬EV表示) ・G pen Blue(H用)
まとめ 10分	【振り返り】 ・「ユニバーサルデザイン」を知る。【思】 ・ワークシートに自己評価を記入する。	【G:ユニバーサルデザインの意味を踏まえ、他の事例を想定することができる。】 ・G用ワークシート振り返り項目に設問を設ける。	ワークシート②

3. 環境設定

(1) 教室環境

平時



グループワーク時



(2) 提示資料

ピクトグラム ゲーム (一部)

けいたいでんわ・スマホ 使用禁止 ここで けいたいでんわは つかえません	マタニティマーク おなかに あかちゃんが います

ワークシート① (前時から継続使用)

2023年度高等学校1年社会 学習日()月()日 名まえ()

●どうがをみて わかったことをメモしよう。

どんなひと	わかりやすいボタン	動画をみてメモしよう (エレベーターにのるとき こまること)

ワークシート② (右 FG/左 ABCDEH をベースに上段の課題の量を個々に調整)

--	--

動画資料 (一部)

4. 個別の実態・目標・手立て・評価 (A…「十分満足できる」状況、 B…「おおむね満足できる」状況、 C…「手立て/目標の検討を要する」状況)

生徒	本時に関わる実態	目標	手立て	評価
生徒 A	直接問いかけると質問に応じた回答をすることができる。書字に難しさがある。	・動画資料から「困っていること」を1つ以上読み取り、STの問いかけに対して単語(短文)で表出することができる。	・STIによる個別指示で課題に注目できるようにする。	
		・いずれかの立場(1つ以上)を想定し、「わかりやすさ・使いやすさ」を考慮することができる。	・言葉掛けやイラストで選択肢を提示する。課題をあらかじめ絞っておく。	
生徒 B	数字へのこだわりが強く、授業と関係ないことに執着してしまうことがある。即時評価で適切な行動に修正することを学習中。	・動画資料から「困っていること」を1つ以上読み取り、STの問いかけに対して単語で表出することができる。	・STIによる個別指示で課題に注目できるようにする。 ・気持ちが落ち着かないときには、切り替えができるようにSTが「丸」「おしまい」などの言葉掛けを行う。	
		・いずれかの立場(1つ以上)を想定し、「わかりやすさ・使いやすさ」を考慮することができる。	・言葉掛けやイラストで選択肢を提示する。課題をあらかじめ絞っておく。	
生徒 C	1つ1つ丁寧に確認すると単純な比較は読み取ることができる。自信がないと、よく考えずに、「わからない。」と投げ出そうとすることがある。	・動画資料から「困っていること」を1つ以上読み取り、教員との対話の中で表出することができる。	・全体指示のあとすぐに個別に関わり、本人が作業に取り組みやすくする。	
		・いずれかの立場(2つ以上)を想定し、「わかりやすさ・使いやすさ」を考慮することができる。	・課題を1つずつ取り組めるよう、関わる。作業が止まった場合は、言葉掛けやイラストで選択肢を提示する。	
生徒 D	質問の意図に沿った回答が難しいことがある。話題を自分の話にしようとする傾向がある。	・資料から事実を読み取ることができる。	・注意が反れて、指示に沿った活動が難しい場合、言葉掛けをして作業に向かえるように促す。	
		・事実をもとに、「わかりやすさ・使いやすさ」を多角的(2つ以上)に考えることができる。	・自分が触れなかった立場についても気づきを得られるよう、友だちとの学びあいの機会を設ける。	
生徒 E	学習への意欲が高い。質問の意図に沿った回答が難しいことがある。「ほめられたい」気持ちが強い。	・項目に沿って情報を整理することができる。	・順を追って考えることができるよう、適宜課題内容を確認する。 ・指示からそれた場合、本人が意欲を取り戻せるように言葉掛けをする。	

		・事実をもとに、「わかりやすさ・使いやすさ」を多角的(2つ以上)に考えることができる。	・自分が触れなかった立場についても気づきを得られるよう、友だちとの学びあいの機会を設ける。
生徒 F	単純な因果関係は結び付けることができる。理由等複雑な思考を求めると「わからない」と回答する。考えをまとめることが苦手。	・項目に沿って情報を整理することができる。	・順を追って考えることができるよう、適宜課題内容を確認する。
		・事実をもとに、「わかりやすさ・使いやすさ」を多角的(2つ以上)に考えることができる。	・新しい気づきを得られるよう、友だちとの学びあいの機会を設定する。
生徒 G	学習への意欲が高い。地理的な見方・考え方ははたらかせ「なぜ」という疑問を持つことができる。	・項目に沿って情報を整理することができる。	・具体例を示すことで、個別に課題に取り組むことができるようにする。
		・ユニバーサルデザインの意味を踏まえ、他の事例を想定することができる。	・ワークシートの振り返り欄に個別に課題を設定し、思考を促す。
生徒 H	発語はみられないが、簡単な指示の理解はできている。いくつかの選択肢の中から自分の意見を選びとり、他者へ伝えることができる。手指の巧緻性に難しさがあるため、粗大な動きになる傾向がある。	・必要な情報を得られる資料を選択することができる。	・扱う資料、質問内容をあらかじめ絞って提示する。 ・ST は指差して回答できるよう関わる。また、選択の順番を変えて提示し、偶然でないことを適宜確かめるよう関わる。 ・Gpen Blue 教材で発言の機会を保障する。
		・「(ボタンに)手が届かない」「(表示が)見づらい」に対応した使いやすいボタンや階数表示を提案することができる。	・エレベーター空間を模したパネルで本人が操作したり、確認したりできるようにする。 ・友だちとの学びあいの機会を設定する。